

2006年（平成18年）11月7日13時30分ころ、耳を疑うような災害が佐呂間町若佐地区で発生しました。それは竜巻です。これにより佐呂間町は甚大な被害を被ったばかりでなく、新佐呂間トンネル工事現場事務所も被災。工事関係者9人の死亡が確認されるなど、最悪の事態となりました。

しかし地域のためにも工事を遅らせることはできず、ほぼ計画通り翌年9月にはトンネルが貫通。平成20年度の供用を目指し、順調に工事が進められています。



北海道開発局 網走開発建設部  
北見道路事務所 **鈴木 亘** 所長

## 整備効果に期待が高まる道路づくりは、自然との共生を図る工事を実践

オホーツク圏に暮らす人々の生活や経済に、大きな夢と可能性を。北見道路事務所は道路づくりを通して地域の発展に寄与する、さまざまな事業に取り組んでいます。

同事務所は一般国道5路線、241.1kmを管轄し、その内訳は国道39号(96.8km)、国道240号(47.5km)、国道242号(33.4km)、国道243号(26.2km)、国道333号(37.2km)となります。管轄市町村は、北見市、置戸町、訓子府町、佐呂間町、美幌町、津別町の1市5町。その特徴は隣接する建設部や道路事務所との境界の殆どが峠（8か所）であり、比較的降雪量が多いことなどがあげられます。特に石北峠、釧北峠では冬期間の交通事故が多く、美幌峠では視界不良などによる通行止めが多数発生しています。

現在取り組んでいる主要な事業として、まずあげられるのが北海道横断自動車道網走線です。これは足寄～北見間を結ぶ高速自動車国道であり、移動時間の短縮などが整備効果として期待されています。具体的には北見市から新千歳空港まで石北峠～旭紋道より約1時間の短縮が見込まれるほか、安全性の高い自動車専用道路のため一般道の約10分の1程度まで死傷事故率を減少させることも可能に。もちろん産業面などでも多大なメリットを生み出します。

また北見道路（延長10.3kmの自動車専用道路）は、北海道横断自動車道と接続し、広域交通ネットワークを形成するとともに北見市街地を迂回するバイパスとして機能するものです。これにより市街地の交通渋滞が緩和され、農産物品の物流支援や管内観光



事務所外観

地、女満別空港へのアクセスも向上に寄与します。さらに継続的な環境調査や環境保全対策を実施しており、貴重植物の移植、オジロワシのモニタリング調査、ニホンザリガニの生息地に配慮した工法を用いるなど、自然との共生を図っています。

## 新佐呂間トンネル建設を行なう佐呂間防災竜巻による悲しみを乗り越え供用を目指す

このニュースが流れた時、「えっ、なぜ北海道で？」と思った人も少なくないはず。それは2006年(平成18年)11月7日13時20分ころに発生した新佐呂間トンネルの竜巻による災害です。

ここでまず新佐呂間トンネルについて整理しておきましょう。北見道路事務所では2001年(平成13年)に発生した北陽土砂崩落をきっかけに、佐呂間防災に取り組むこととなりました。地質的に北陽崩落現場と同様の構造が法面で確認されたことが最大の理由です。そこで危険箇所回避のため、佐呂間町と北見市を結ぶ延長約6kmの大部分をトンネルに。うち新佐呂間トンネルは延長4110mであり、北海道で2番目の長さのトンネルとなります。ちなみに1番目は国道236号の野塚トンネル(4232m)です。

これにより地域住民は物流面及び、圏内唯一の救命緊急センター「北見赤十字病院」への救急搬送が向上することを、佐呂間防災に期待するようになりました。しかし竜巻による思わぬ災害が工事現場事務所を襲い、工事関係者9人が死亡。中には幼い子どもを残して旅立った方もいます。16人が負傷し、事務所及び宿舎、作業員宿舎、インフォメーションセンター3棟が全壊。工事は1か月休止しました。

また佐呂間町全体では(工事関係者を含む)9人が亡くなり、約30人が負傷、建物被害は約100棟となり、住民生活に大きなダメージを与えました。

それでも当初の予定から大幅に遅れることなく工事は引き続き行なわれ、新佐呂間トンネルは2007年(平成19年)9月4日に貫通。供用は平成20年度(平成21年3月ころ)を予定しています。

## 「子どもを見守る活動」や「ハーブ国道」など地域に密着した、地域のための特色ある取り組み

「ほかの道路事務所さんでは、あまり取り組んではいないと思われる、北見道路事務所らしい活動についてお話しします」と、快活な口調で資料を取り



業務風景

出した鈴木所長。胸元を見ると「こども110番」の、かわいらしいバッジを付けています。



『こども110番の車』のステッカー

「最近胸を締め

付けられるような、子どもを狙った犯罪が多発しています。そこで『子どもを見守る活動』というボランティア活動を始めました。国道の維持工事を通年で受注している企業5社と当事務所による取り組みで、道路パトロールカーに『こども110番の車』のステッカーを添付して巡回。何らかの抑止効果になればと思っています。網走開発建設部管内の全ての道路事務所で実施しています。また北見はハッカの街ですから、それに関連づけて国道39号の『ハーブ国道』にも着手。緑化材料としてハーブを活用するもので、除草費の軽減、特色ある美しい道づくりなどが狙いです。お金を使わず、知恵を使う。これからの課題ですからね(笑)。ほかには、統計によると日本人男性の5%が色弱者だと報告されていますので、そういった方にも安全で見やすい道路にできるようカラーユニバーサルデザインの取り組みも始めたところ」と、具体例を分かりやすく説明する鈴木所長。

近年北見市は、大雪、ガス事故、そして断水などさまざまなトラブルが発生。「断水になった時は、全道から給水用にも使えるタンク車をかき集め、ポンプが付いていますので病院や企業などに給水させていただきました。道路のことだけでなく、何かあった時は地域のために役立つ道路事務所であること。このスタンスを貫き、しっかりお手伝いさせていただきたいと思っています」という、鈴木所長の頼もしい言葉が印象的でした。